

ハイスクールD×D 神騙しの邪龍

通りすがりの何か

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

いざからかおう！

ドラゴンも神も魔王も全ては玩具！

原作キャラも巻き込んで楽しい遊びをしよう。

byこの後めちやくちや怒られたドラゴンより

目次

プロローグ	1
旧校舎のディアボロス	
堕天使？それよりカレーだろ	4
悪魔でも美少女なら関係ないよね？	8
神は言っている……「もう勘弁してください」と	11
堕天使をさらに堕天したら何になるんだろ	14

「ダメです！もう死んでます！」

「「そんな！」」

あつ神死んだ。神が髪抜けて死んだ！ギャグかなwww
天使陣営大混乱。

「えつマジに死んだの？」

「「このクソ邪龍！」」

「抜け毛で死ぬってwww。」

はー笑った笑った…… あん？

「ひっかかったなクソ野郎（ニチャア）。」

oh… 二天龍が一角「赤い龍」ア・ドライブ・ゴツホさんが

ドラゴンとしてしちやいけない笑顔で俺を後ろから抱きしめてきてりゅ。

「えっ？俺のこと好きなのかい!?!？」

「でかした赤いの！」

「白いの！俺ごと殺れ！」

「まかせろ！二度と目覚めない封印を……！」

「その術式間違えてるぞ正しい術式はコレだぜ。」

「今の聞き取りづらい言葉はまさか！白いの、騙されるな！」

「しまった術式を間違えたコツチが正解だ。」

「白いのおおおお！（泣き）」

ニタリ、あの術式じゃ俺を封印でき……アレ？

なんか別の封印魔法が？

「「天使いいいい！命をもやせええええ！」」

「「悪魔どもおおお！手を抜くなよおおお！」」

「えっ？嘘マジかあああああ！」

「よくやった塵芥……いや、戦友達よおおお！」

「「総員、戦友たる二天龍に敬礼！」」

あらやだコイツら仲良くなってる

「待て玩具×2！このままだとお前らまで封印されるぞ！」

「ギャハハハ！ザマアみやがれクソ野郎！テメエも道連れだ！」

「あんだそんなキャラだっけ!?!？」

「よし術式ができたぞ赤いの！封印だ！」

「いつまで騙されてるんだ白いの!?!?」

だがただでは封印されん！

「ふはははは！勝ったと思うなよ二天龍！」

「ふっ負け惜しみか。ドラゴンとして恥ずかしいな。」

「さつきまでドラゴンとしてどうなの? って振る舞いしてた赤い龍が何を言う。」

「ほっとけ！」

「だが俺は、いずれ面白そうな時に復活する！せいぜい俺がいない時は俺の事を忘れて好きに過ごすがいい！」

「はっほぎげ、そんな聞き取りづらい負け惜しみ…… あ！」

「どうした赤いの、封印が始まったぞ? …… あ！」

「しまったあああああ！」

「アヒヤヒヤヒヤヒヤwwwwwwバーカーwwww。」

こうして俺は思ったより長く封印された、面白い時代はしばらく来なかったらしい。

今やこの埼玉の地で埼玉愛を謳いながら霊体だけで現代日本を見ている。

なんで埼玉に封印されるわけ? 暇なんだけど平和で。埼玉好きだけど。

「うん? 祠?」

まあ封印も弱まってるし無理矢理解いて目の前の人間の神器にでもなつてまた遊ぼう。

「うお! なんか喉に違和感が?」

『俺の力の所有者になったね、俺は「プリテンダー・ドラゴン詐称の龍」ひやくめんよこしまのかみ百面邪ノ神……

今、君の頭の中に話しかけているよ♪』

「気持ち悪！」

ヒドイ?!

旧校舎のディアボロス 堕天使？それよりカレーだろ

今日は転校初日！友達100人作ったるわ！

駒王町に引越して来たばかりだから友達いないっす

『口下手が何を言う。友達いないのはもともとからだろ？』

うるせえ！

『後この学校悪魔の巣窟だからね。』

「狩らねば！」

『美男美女の悪魔だらけだけどね。』

「美男美女!?？つまりリア充！話しかけれねえええええ！」

「何あの人ひとり言？」

「関わっちゃダメなタイプの人なんじゃ。」

『「ヒドイ?!」』

美男美女の悪魔だと、そんなオタク心を刺激する人外達とかどう接すれば良いのさ。

俺ただの体に魍魎魍魎の類が取り憑いてるだけの一般ピープルよ。

「ときに百面。」

『何?』

「死ね??」

『やだ??』

コイツどうやったら俺から離れるの！

10年前も除霊してもらおうと近所の霊媒師に頼んだら。

10年前

「埼玉！埼玉！埼玉！埼玉！埼玉！埼玉！そう、埼玉こそ埼玉なのだ！」

「お師匠様あああああ！」

「師匠が呪われたぞ?!?」

『埼玉あああああ!』

「この悪霊も呪われたのか?」

なんか埼玉を連呼する大会になったし、まあ普通の人間も。

え？アレ閻魔大王!?!?あの女の子オーラで閻魔大王を顕現させてる!?!?

『最近の女の子ってみんなあんななんなの?』

『そうなのかなあー?』

いやあつてたまるかそんな真実

『もう放課後だし帰ろう。』

『そうね（なんか懐かしい気配がしたけどね）帰りがてら何かで遊ぼう。』

「お前の遊びは碌なことにならないだろ、それこそ堕天使の頭をおかしくさせるとか……ちよっ!お前勝手に!」

『アヒヤヒヤヒヤヒヤ!ワロス!』

嫌な未来確定のお知らせ!

【帰り道】

「堕天使先輩ちいす!」

「な!なんだ貴様は!」

なんかコート着た一見すると露出魔か何かみたいな堕天使を発見

!

「悪いけど頭おかしくなって。本当にごめんね。」

「は?」

うん、そりゃあ何コイツみたいな顔になるよね。

「人間風情がバカにするな!この堕天使のドーナシークを!」

「ごべんなざい!これも全て俺の中に住み着いてるドラゴンんの所為なんです!」

「貴様神器持ちか!ならば死ぬ!」

うん、こうなるよね。

「そんなに叫ぶと近所の筋肉質の魔法少女に襲われるぞ?良いのかい?」

「は?」「によ?」「あ?」

その時、不思議な事がおこった。

突如現れた可愛^{筋肉ムキムキの変態}い魔法少女に堕天使ドーナシークは殴り飛ばされたのだ

「ぐるはああああ!?？」

「バイオレンスフラッシュによおおお！」

「こんな事があつてたまるかあああああ！」

「ふんが!……によ。」

凄え、適当に魔力を込めて言つてみたけど本当にこんな^{化け物}変態が近くにいるとか。駒王町つて魔境かよ!いや悪魔沢山いるから魔境か。

おや、マツチヨメンが光の巨人みたいに空飛んで帰つてつた

「それじゃあ身も心もボロ雑巾になつたところぞ。」

「や…… やめて……。」

本当にごめん

「お前はカレーの真理を知る。」

「あばばばばば!なんだこのターパンを巻いた褐色肌の男は!??まて!その煮えたぎつた赤い液体はなん…… 辛!??辛すぎる!だがコクがあり癖に、やはり辛い!しかし良い匂あばばばばば!??。」

お粗末!

悪魔でも美少女なら関係ないよね？

「何故ここに呼ばれたか、わかるわよね？」

「いえ、ちっともわかりません。」

「なんて？」

綺麗な悪魔のお姉さんに、尋問されています。

百面のバカ！原作開始前だからばれないさwwwって言ったのに秒で俺が昨日墮天使と戦ったってバレてるじゃん！

「失礼、まずは名乗るのが先ね。」

「あ、ハイ。」

やったー

凄く優しくて喋りやすい綺麗な女の人だー！おえ、緊張で吐きそう。

「私はリアス・グレモリー、この辺りを管理している悪魔よ。」

「自分は田中太郎でしゅ！（やべ、噛んだ！）」

「田中太郎？」

「ひゃい。」

「地味ね。」

でしようとも！

「あの？」

「何かしら？」

「呼ばれた理由は？」

「昨日の墮天使。」

「俺がやりましたあああああ！」

「落ち着いて、貴方に落ち度がないのはわかってるから、だから手錠を求めるように全力で私に手を押し付けられないで！怖い！」

よかった無実だ。姉ちゃん、そして恐ろしい妹よ！俺は無実だ！だから妹よお願いだから修行の旅から帰ってこないで！

『お前の妹どんだけ怖いんだよ。』

『仕方ねえだろ、昔フェニックスって悪魔さん達が泣きながら俺に娘さんと俺の妹の喧嘩（という名の妹による一方的なイジメ）の仲裁を

頼んでくるようなバケモンだぞ!..... て言うかお前も見てたよな。』

『怖かったので、途中から見てない。』

『ならやむなし。』

しかしこの部屋、趣味悪いな。悪魔でも召喚するんか？

『この子悪魔じゃん。』

そうだった。

「さて、質問だけど。どうやって堕天使を撃退したの？」

「神器で倒しました。出てこい百面。」

『え?』

俺が百面の名を呼ぶと、小さな6本の腕をもつ虹色の蛇が現れた。

「え?」

「これが俺の神器、『虚言法典』きよげんほうてんです。」

「なんで俺実体化してんの!?!?こんな機能知ら「少し黙れ。」むぐむぐ

!?!?」

「名前から察するに嘘を信じさせる神器かしら?」

「嘘に限らず、言葉ならなんでも。あと言葉にしたことを無理のない

範囲で実現できます。」

「まあ凄い。」

「言葉を現実にするには、「恐竜に襲われる」の場合近くに恐竜がないと起こらないとか、「悪魔になる」だと道具が手元にないと実現できないとか、普通に限界がありますけどね。」

意外と地味な神器なんだよなコレ。

「素直に神器の能力を話したのは、私に敵意がないことを示すためかしら。」

「はい、悪魔はいちいち敵対してもしようがないですから。」

「悪魔のことはどこで?」

「実家が日本神話陣営と繋がりがありません。」

「なるほど。」

「あと妹が教会陣営に嫁修行がてらエクソシストをボコリに行ってます。」

「なんて?」

「妹が剣技を鍛えに教会に殴り込み。」

「なおいわらないわ!」

「だよね、俺もわけわからんもん。」

美人つてこめかみを押さえて目を閉じてるだけでも絵になるな(現実逃避)。

「妹さん元気?」

「教会から血文字で書かれた苦情が届きます。」

「元気そうね…… お茶でも飲む?」

「いただきます。」

「凄えなこの人、表情青ざめてるのに優しい笑顔のまんまだ。」

「部長、ただいま戻りました。」

「朱乃、お帰りなさい。悪いんだけど紅茶を入れてもらえるかしら。」

「アレ? 姫島さん!?!?」

「え? 田中君?」

「え? 2人は知り合いな「ヒイイイイイイイ! 申し訳ありません太郎様!・今すぐ靴をお舐めます!」朱乃!?!?」

「いや舐めなくても良いですから!?!? 妹がすいません!」

「貴方の妹何したの!?!?」

「どうしよう、百面さつきから喋れてないから後でめちやくちやからかって来そう。」

「後この学園、姫島さんも通ってるのか」

神は言っている……。「もう勘弁してください」と

前回のあらすじ 「ヒイイイイイイ！申し訳ありません太郎様！今すぐ靴をお舐めます！」

「主よ、妹のやらかしをなかつたことにしてください。」

『残念、主はハゲてショック死した。(俺が元凶wwww)』

このドラゴンをグーで殴りたい！

あの後荒ぶる姫島さんを正気に戻すの苦勞したな

グレモリー先輩も泣きながら正気に戻って！お願いだから！って
姫島さんに関節技決めてたし

「なんで姫島さん正気に戻すの手伝わなかったんだ？性悪友達0人
ヘッポコど腐れドラゴン。」

『逆になんで俺が手伝うと思つた？本編開始2話目でようやく明らか
になった名前が地味だったコミュ症ボツチ。』

『よろしいならば戦争だ！』

この後めちやくちや口喧嘩した

【翌日】

「タスケテ。」

「田中君？私のお弁当は食べないのですか？」

「なんで姫島先輩が転入生にお弁当食べさせてるの!？」

「まさか田中君ってお金持ち？」

「姫島さんどう言う関係？」

「おのれ転校生、二大お姉様と親しげに！殺す！」

「落ち着け松田。」

妹よ、姫島さんに何をした？中学1年の時しばらく俺と妹と一緒に
悪魔関連の仕事で行動してたけどこの人妹に何された!？

「嗚呼……愛おしいご主人様。」

妹よおおおおお！本当に何をした！確かに昔のこの人お淑やかなの
にメスガキみたいだったけど、わからせろとはお兄ちゃん言った覚え
がないな！

『心の中で喋りまくる癡治して現実で喋ろうな。』

うるせえ！口下手なめんな！

「貴方と俺は一緒にお弁当を食べる中じやないはずですが？」

「貴方と一緒に弁当食べれる時間は至福ですわ。それに昔は一緒に海で泳いだりしたでしょ？」

ん？全然神器の力が効きませんが？

解説の百面さん！

『効かないと言うか……聞かないと言いますか……。』

なるほど！思い込みが激しいと言葉が届かないのね！俺の妹もそうだからわかるよ、もう僕嫌だ！

「田中あああああ！俺は兵藤一誠、モテたい男だ！」

「そうか！俺は田中太郎、注目を浴びたくない男だ！ゆえに黙れ！そしてほっといて！」

「綺麗なお姉様にモテる方法を教えてくれ！」

「努めて『紳士』でアレ！」

「あざっす！」

頑張れ、友よ。

「押し倒せつてことだな！」

「なるほど、コイツは馬鹿だ！」

本当にこの馬鹿さがなければ話しやすい良い奴なんだけど。

【翌朝】

「彼女ができたぞ！」

「え！」

「そんなに驚く！」

嘘だろ、この性欲に忠実すぎるこの男に恋人！

「ヒイヒイ言わすのか？」

「言わさんわ!?？普通に清く正しい男女交際だ！」

「本音は？」

「エロいことみたいです！」

「わかる！」

『わかるな。』

百面よ、男は悲しい生き物なのよ

「というわけで、ハーレムを作る方法を教えてくれ！」

「バーカバーカ色情魔、彼女できたのになに聞いてんだwwwお前なんか美女に囲まれて、男どもに嫉妬されてろ(笑)…… あっやっちまった。」

『草。』

墮天使をさらに墮天したら何になるんだろ

やあ、ぼく○ツキー！H A H A♪

『夢の国に消されるぞ！』

覚悟の上よ！それより

「田中くーん??なんで俺たちの前に立ち塞がってんのかな?」

「俺たちは彼女ができたイツセーを処刑しなくちやいけねえんだけどな?」

兵藤お前は友達を選べ！コイツら目が座ってる!!?

「イツセーに彼女はいない!」

「殺す。」

「ダメだ全然言霊が効かない。」

『コイツらなんなんだ!!?』

怖いよ

「眠れ!」

「お婆!」

お婆?恐ろしく早い手刀で眠らせたが酷い断末魔だ

ところで誰だお婆とは?

『お婆とはアテクシの事にございませし(笑)。』

黙れ百面、そのネタは面白いと思うが今から兵藤を尾行する

そしてあわよくば尊い純愛を拝むのだ

ゆえに俺好みの冗談は後にしてくださいませ

『イエツサー!』

ターゲットが見えた

いざ純愛!

「グオオオオオ！デートつて何すればいいんだ！」

は？

兵藤と黒髪のメガトン級別嬪さんが頭を押さえて絶叫してりゆ！！

？

ドユコトヨ！！？

『田中隊長！こちら百面二等兵、状況を報告するであります！』

よし報告しろ！

『アイツら恋愛クソ雑魚（震え声）。』

マジか！

『後女の方は墮天使であります！』

うん？最近何かやらかそうと街に侵入してきた奴らか

つまりあの女兵藤のこと騙して殺そうとしてんのか

なるほど……穴という穴にピーナッツ突っ込むか（怒）

『貴様千葉の回し者か！（怒）』

まあどの道死刑だが念のため頭の中覗いてみるか

「なんで私は人間相手にドギマギしてるの！！？たかが人間風情に

！……この服気に入ってくれているかしら。変な女とか思われ

ていないわよね？」』と考えてるぞ。』

グツジョブ百面

死刑に処されるべきは彼女を疑った俺自身だ！

『さて、お前が死ぬと俺も痛い。』

せめて一緒に死ね！

『宿主が死ぬと自分も死ぬ、そんな設定セイクリッドギアにはない！』

確かに（田中納得）

さて純愛を拝むとするか！

「じゃあアイツセー君また明日。」

「おう明日までにデートコース考えとくぜ！じゃあね夕麻ちゃん！」
終わったあああああ！

不完全燃焼じゃあああああ！

と言うか女の子一人で家に帰すんじやねえよ彼氏！

「ヤッター明日はイツセー君とデート??」

『守護らねば。』(´・ω´) …… (´・ω´) …… (´・ω´) ……
… ;

『NYINE♪』

(? ^ ?) むっ? ニヤインが来たか

どれどれ

〔妹〕〔明日愛しの兄様の学校に転入します??〕

「嫌だ死にたくない！死にたくない！うわあああああ
!!!!!!」